



「良寛の里」
平成3年4月14日(日)オープン!

銀座に托鉢姿の
集団が出現?

十一月二十五日、首都圏の人たちに和島村を知ってもらおうと、銀座で役場職員ら三十人で和島村のPRをしました。

道行く人たちに切りもちと良寛の里のパンフレットを入れた封筒を三千個、また子供や女性には三百個の手づくり手まりをプレゼントしました。銀座にみない托鉢姿で出現したせいか、はじめは不調でした。ところが「こんなに配れるの?」という不安も時間とともに消えていき、約一時間で配り終えました。

そして広い東京とはいっても中には「私、新潟の出身なんです」という方もいらっしゃいました。そういう言葉をきくと、何だかうれしくなりますね。新潟を思い出していただけでしたか?和島村のあたたかさ、伝わりましたか?

特集
古代のロマンを求めて



よう
きなさったね

越後島田郵便局長 金泉徳次さん

越後島田郵便局に、六月二十三日付でお世話になっていきます金泉です。出雲崎町海岸地域の井鼻というところから通勤していますがどうかよろしく頼みます。

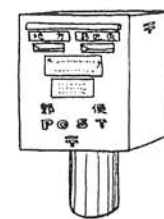
越後島田郵便局は、記録簿によりますと昭和六年八月二十一日に開設されたと記入されております。以来、約六十年間、地域の皆様から親しまれ、利用されてきたわけで、責任の重さを感じているところです。今は、一日も早く村民の一員とならなければと、ご家庭を訪問したり、和島村のお店で買物をしたりしています。

ところで、和島村に寄せていただき、とくに関心をもっていることは、「村おこし」の事です。村民の方々が考え、参加する「村おこし」にどんなことが行われているか、そのことを知ることが、

まだ日の浅い私にとって地域のことをよく知ることになります。

また、村当局から「良寛の里」四月オープンの「広告付はがき」が印刷され、新潟県内の各郵便局で発売されています。歴史的資源や優れた自然条件に恵まれた和島村が、今後、着実に発展することを感じているところです。

私も心を新たに、お客さまのための郵便局づくりに努力したいと考えています。これからも「皆様の郵便局」として、ご利用下さいますようお願い致します。



私たち
アルミ缶のキャップを
集めています

リハビリの会、ぬくみ会ではアルミ缶のキャップを集めて車椅子を購入しようと、和島村、与板町、寺泊町、出雲崎町、三島町の仲間と力を合わせて、キャップひろいをしています。皆さんも御協力をお願いします。

会の代表、村田 花井清一
下富岡 中村タツ



人口の動き

11月末人口	
出生4人	死亡2人
転入9人	転出7人
世帯数 1,270世帯(±0)	
男	2,721人(-1)
女	2,842人(+5)
計	5,563人(+4)
()内は前月比	



年頭のご挨拶

和島村長 清野 精合

平成三年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、村政推進に当って大変ご理解とご協力を賜わり心から感謝を申し上げます。

国際化が複雑多岐に進み、東欧における政治改革・中東の湾岸危機等国家間の紛争に日本もそのうち外に在る事を許さない状況の中で、之等に感応し数次の難局も一応クリアして概ね国内経済は安定の中で越年いたしました。情勢は尚きびしく続いています。

このような国際関係がきびしい中で、南太平洋の楽園仏領タヒチとわが村の子供達が相互に訪問するホットなニュースもありました。これに輪をかけたようなドラマチックの出来事が年末に起きました。八幡林遺跡からの木簡出土です。出土の郡符は、日本最古で且つ初めての木簡で日本の歴史を変える程の超一級の出土品だとい

ことです。出土の地点にバイパス方線が敷かれたこと、他に例のない建設省と村の発掘契約が交されたこと、また県が自らの嘱託職員を推せんしてくれた事等運命的出会い、ドラマチックな事実であります。全国に和島村を紹介し、村の存在価値を天下に示す貴重な事と受けとめています。

村の行財政は、お陰様で順調に推移し、国費の積極導入をはかつて、大型事業推進しながらも、財政基盤安定の目安となる公債費比率は、平成元年度決算で一一・五％、二年度の推計では一〇・二％と更に低下し、財政硬直性の目盛となる経常収支比率も元年度六二％とかつてない安定度を示すに到りました。長期的視野からの計画的行財政の推進、健全財政の堅持は今後も努力しなければなりません。さて今年、ふるさと創生、地

域活性化の柱としての良寛の里が四月にオープンと決まりました。美術館常設展示室には、良寛の遺墨遺品を展示し、企画展示室には貞心尼を中心とした展示にしたいと進めています。

物産館ゾーンには、良寛像が生前好んだ紅葉等樹木に囲まれて弥彦国上を望む高台に立ち、歴史民俗資料館には、八幡林山田郷地の遺跡から出土した木簡陶土器を始め民具等良寛の歴史を示す諸々の物品を展示いたします。

物産館には、村の特産品を開発展示販売し、レストランには郷土料理、新鮮な山海の珍味をご来村の方々及び村民の皆様から賞味して頂くようお待ちしております。

良寛の里全体を一大公園化して村内外の皆様から気軽にご利用出来るものにと考えています。次に企業誘致の為の黒坂地内の用地に埼玉県から工場を誘致し、雇用の場を確保提供いたします。

きびしい農業情勢ではありませんが、桐島地区再圃場整備は県事業として調査が行われることになりましたが、農家各位及び関係者各

位のご理解ご協力をお願いします。

定住を推進する為住宅団地の造成も本年実現出来るよう進めます。

高齢者社会に対応した高齢者コミュニティセンター建設を過疎対策として取り組む考えであります。福祉十ヶ年計画の一環としての民生安定福祉サービスの事業は前年にも増して推進いたします。

昨年の島田小学校に続いて桐島小学校のグラウンド整備工事を実施する考えであります。

昨年広報でお知らせした過疎地域活性化計画を推進し、若人の定着を促進し過疎からの脱却をめざして取り組む所存であります。

空気清浄・山紫水明のわが村、ロマン探究の夢が続くこの地、良寛がみずみずしく生きたこの村。この里に、文化の香り高いゆとりのある地域づくりを進めて、住んでよかつたというつぶやきが出る村づくりを進めてまいりたいと考えております。

どうぞ健康に留意され、家庭団らん、地域和合の楽しい一年でありますようお祈りして年頭のごあいさついたします。



新年のごあいさつ

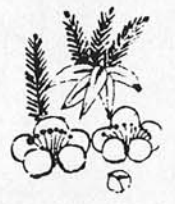
和島村議会議長 山田 忠

明けましておめでとございます。新しい年を迎え村民の皆様のご多幸とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

村民の皆様には、平素村議会の活動に対し、格別のご支援と絶大なご協力を賜わり心から感謝申し上げますとともに本年も村議会の充実発展のため微力ながら決意を新に鋭意取り組んでまいる所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、二十一世紀に向うわが国の社会情勢は、高齢化、高速情報化、国際化等が急速に進むなか、米の自由化問題、税政改革問題など地域経済に影響のある問題が山積しております。

このような情勢下において、地方自治の要として私ども議会の果たすべき役割は、ますます重要性を増してまいりました。



一方住民の要望は逐年複雑多岐化、かつ高度化してまいっておりますが議決機関たる私ども村議会といたしましては、村民の代表として終始公正に村民の負託に応えるよう常に村民の世論の動向を把握し、当面する諸問題を慎重に審議を行い村政全般にわたって内容充実に、最大限の努力をしております。

本年四月には「良寛の里」のオープン、又農業集落排水事業、公共下水道事業、ふるさと創生事業など数々の課題がありますがこれら皆様のご指導とご協力を得ながら施策の展開に努力したいと思っております。皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げ新年のごあいさついたします。



新年のご挨拶

首都圏ふるさとわしめ会長 宮田 清一

郷土和島村の皆様、新年明けましておめでとございます。

旧年中は、「首都圏ふるさとわしめ会」に対しまして格別なるご高配を賜わり、誠に有難うございました。

御陰様で「会」も昨年創立十周年の総会を開くことができましたが、これも偏に和島村の皆様のご支援と、郷土を思う会員各位の賜と感謝致しております。

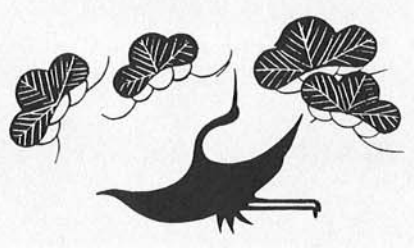
そして、総会には公私にわたりご多忙にもかかわらず、清野村長さん、山田議長さんをはじめ村の幹部の多くの方々のご出席をいただき、その上心温まる激励の御言葉や早川初代会長さん、「会」に対しまして各々感謝状まで戴くなど会員一同、感激致しております。

また、村長さんより村政の近況報告、取分け公共下水道の現況や、良寛の里美術館の経過など村長さんを先頭に、村の皆様が真剣に

取組まれている様子を、お聞き知ることができ深く感銘致しました。

今後も私共会員一同、村の事業発展のために更に尽力を惜しまない所存であります。

最後になりましたが、郷土和島村の益々のご発展と、皆様のご健康を心より祈念致しまして、年頭のご挨拶と致します。



明るい家庭づくり運動作文

和島村青少年育成村民会議
和島村教育委員会



おじいちゃまはやくなおつてね

桐島小一年 木村 もとふみ

ぼくのうちは、おじいちゃまが
びょうきで、入いんしています。
おばあちゃまが、せわをしてい
るので、いまは、五人かぞくです。
いつ、たいいんしてくるか、わ
かりません。早く、かえってくる
と、うれしいです。
五人かぞくでも、がんばってい
ます。
おとうさんは、休みの日には、

おじいちゃまのかわりに、りょう
かんさまのせつめいをしたり、り
ょうかんさまのおはかをあんない
したりしています。
おかあさんは、おきやくさまに
おちやをだしたりしています。
おにいちゃん、じぶんで、は
しをつくって、おじいさまに、
プレゼントをしました。
「ありがとう。おいしくたべられ

るよ。」
と、よろこんでくれました。
ぼくは、おてがみをかきました。
「おじいちゃま、おばあちゃま、
おげんきですか。ぼくたちも、
げんきです。
おじいちゃま、早く、なおつて
きてください。なん日に、かえ
ってくるの。」
と、おてがみを、かきました。

おじいちゃまが、たいいんして
きたら、
「おかえりなさい。」
と、いつてやるよ。
おじいさまが、いないときび
しいよ。いと、うれしいよ。
おじいちゃまは、年よりだから
やさしくしてあげるよ。
げんきになったら、クロのさん
ぼにつれてつてよ。
早く、なおつてきてね。



みんなで「げんき」をこころよ

島田小一年 はたほこ ひろみ

ひろみのうちは、五人かぞくで
す。
おとうさんは、まい日、のうき
ようへいっています。ゆうちゃん
のおかあさんと、いっしょです。
おとうさんは、でんかせいひんを
うっています。こわれたときは、
なおします。雨がふってもいくん
です。のうきようで、きもちがわ
るくなってもかえってきません。
だって、よその人が

へんだなあ。」とおもいました。
おじいちゃんもおばあちゃんも
しごとについています。たまに、
ひろみがごはんをたべているとき
にいくけど、ねているときにいく
ほうがいっばいです。
おばあちゃんは、このまえ、ひ
ろみの学校にきていました。うら
山の、うさがおかのしごにき
たのです。ひろみは、べんきよう
をしていました。
やすみじかんになったので、ま
どからのぞきました。そしたら、
おばあちゃんが、こつちを見まし

た。ひろみが、手をふりました。
おばあちゃんも、手をふりました。
ひろみは、ちよつとはずかしかつ
たです。でも、すつこくうれしか
ったです。四じかんめがおわつた
ので、また見ました。でも、もう
おばあちゃんはいませんでした。
ごはんをたべにいったのです。
おかあさんも、しごとについて
います。ごはんもします。せんた
くもします。わたしは、田んぼに
ジュースをもっていきます。おと
うさんは、
「ありがとう、ひろみものむか。」

といます。わたしは、
「いらん、あとのむ。」
といます。おじいちゃんにもや
ります。おばあちゃんにもおかあ
さんにもやります。みんながのみ
ます。それから、また、田んぼを
します。
かぞくみんなで、しごとをして
います。



大そうじ

桐島小二年 かせ 正かず

ぼくの家では、毎年、十二月の
終わりに、大そうじをします。き
よ年は、十二月三十日に、大そう
じをしました。
大そうじは、家ぞくみんなです
ます。ぼくの家には、おばあちゃ
んが二人います。大きいばあちゃ
んは、八十一才です。小さいばあ
ちゃん、五十五才です。おじい
ちゃんもいます。おじいちゃんも
おばあちゃんも、いっしょに、み
んなで、そうじをします。
おじいちゃんとおとうさんは、
おもたいたいのをはこびます。ぼく
は、まだおもたいたいのを、はこべ
ないから、すごいなあと思いまし

た。
おばあちゃんやおかあさんは、
ぞうきがけをします。ガラスみ
がきや、じゅうたんのとりかえも
します。
ぼくは、ぼくのへやのそうじを
します。おかあさんも、手つだつ
てくれます。
車このかたづけをしていたら、
メダルが出てきました。大きいば
あちゃんが、
「ひいおじいちゃんが、せんそう
に行つて、もらったんだよ。」
と、いきました。ぼくは、おどろ
いてしまいました。とっても、き
れいなメダルでした。

そうじが終わった時、からだ中
ほこりだらけでした。でも、家中
が、きれいになったから、気もち
よかったです。それに、家ぞくの
みんなが、
「がんばって、そうじをしたね。」
と、いつてほめてくれたので、と
てもうれしかったです。
今年も、十二月の終わりに大そ
うじをします。今年もがんばって
そうじをします。早く、おとうさ
んたちのように、おもたいたいのを
はこべるようになれたらいいなあ
と思います。

池に入りしました。そして、ほうき
ではきました。たらいの中に入れ
た魚は、おばれていました。魚と
いっしょに、水もあはれているみ
たいでした。水がはねて、顔や体
にかかってぬれてしまいました。
池の水がきれいになりましたので、
魚を池にかえてやりました。魚
は、気もちよさそうにおよいでい
ました。
そうじがおわつたころ、おかあ
さんが
「みんな、ごはんだよ。」
とよんだので、家に帰つて、ひる
ごはんを食べました。
ごはんを食べてから、こんどは
おかあさんのシチューづくりのて
つだいをしました。じゃがいもと
にんじんと玉ねぎを切りました。
玉ねぎを切ったときに、なみだが
出ました。
「うわあ、なみだが出た。」
といつて、なみだをふきました。
にくを切るときは、くにやくにや
して、じょうずに切れませんでした
た。そのとき、おとうさんが、家
に入つてきて、大きな声で、
「未来ー。車をあらうから、てつ
だつてくれ。」
といつたので、にくを切るのをお
かあさんにやつてもらつて、わた
しは外にいきました。外には、車
がしゃこから出てありました。
おとうさんがシートをとつたので
わたしは、車をあらいました。ち

よつと力を入れてあらいました。
車をあらうときに、水がたくさん
かかりました。おとうとは、ホー
スであそんでいました。こんどは
おとうとがびしよぬれになりました。
た。おとうさんは、わたしたちが
あらいにくい、車のうらとかすき
まのところをあらいました。
一日じゅう、おてつだいをし
ていました。きようは、「カレー曜
日」じゃなくて、「おてつだいの曜
日」でした。おてつだいをするの
はたのしいなあと思いました。お
とうとやおとうさんといっしょに
したからです。
日曜日は、とてもよい一日でし
た。



てつだいで

島田小二年 八子 未来

日曜日は、とてもよい天気です
た。朝、おばあちゃんが、
「冬がくるから、だいこんをあら
つてくれ。」
ときました。それで、わたしは、
おかあさんとだいこんをあらいま
した。
たらいに、水をホースで入れて

からあらいました。水がすこくつ
めたかったです。
「てぶくろをもつてこようか。」
とおかあさんがいつたのもつて
きてもらいました。左手に手ぶく
ろをはいたら、すこしつめたくな
くなりました。あらいおわつただ
いこんやにんじんを、こやにはこ

びました。二本ずつはこびました。
にんじんよりだいこんのほうが、
おもかったです。はこびおわつて
から、そこをはきました。
だいこんはこびおわつてから、
池のそうじを、おとうさんとしま
しました。池には、はっぱがいつぱい
ありました。水をくみ上げてから

おじいちゃまが、たいいんして
きたら、
「おかえりなさい。」
と、いつてやるよ。
おじいさまが、いないときび
しいよ。いと、うれしいよ。
おじいちゃまは、年よりだから
やさしくしてあげるよ。
げんきになったら、クロのさん
ぼにつれてつてよ。
早く、なおつてきてね。



しょうじばり



桐島小三年 宮田 雄介

ぼくは、十一月二十四日の土曜日に、お父さんと姉さんと三人でしょうじばりをしました。まず、さいしよに戸をはずしませんが、ぼくの部屋と茶の間の戸をはずしました。ぼくは、戸をはずすのは、かんたんだと思っていまして、やってみると、いがいにむずかしいものだと思います。次に、しょうじ紙をやぶくのです。はずした戸を、げんかんの前を出して、短いホースで水をかけました。紙はびしょびしょになってきりやすくなりました。とりのこしのないように、全部きれいに

とって、紙をすてて、板の戸をかわしました。その日は、天気よかったです。すぐかわきました。今度は、のりをつけます。去年やったはずなのに、もうわすれていて、姉さんから教えてもらいました。はじめに、姉さんのりをぬりました。ぼくも、自分でやりたくなってききましたので、姉さんに、「ぼくにもやらせて」といいました。姉さんは、少しおこったような顔をしましたが、はけをかけたので、とてもうれしかった

次に、板の戸のサイズに合わせ、紙を切りました。ぼくがすると、へただからといって、姉さんが切りました。紙をはるとき、のりがあまりついていなかったのでもう一回はがして、のりをつけてもらって、また、はりなおしました。今度はせいこうしました。やっと一まい終わったかと思つたのに、まだまだ、あと、三まいから四まいもありました。はり終わつたしょうじに、きりふきで水をかけました。水をかけ

るのは、去年やったのでわすれてはいませんでした。やっと、本当に終わったので、ぼくは、ほっとしました。そうしたら、急にのどがかわいてきました。ぼくは、「ごくごく」と水をのみました。お母さんが帰ってきて、「ありがとう」といいました。ぼくは、ほんとうにうれしくなりました。「また、あしたやる」とお父さんがいいました。あとは、ぼくの部屋のしょうじなので、きれいはろうと思つた。この作文を書きました。

ことにしました。だんだん色がついてきて、お母さんが、「きつね色になったらあげるんだよ。」と教えてくれました。すぐに食べたくなるにおいでした。さいごに、わたしは、お母さんがあげたコロッケをお皿にもりつけました。コロッケのそばにキャベツのせんぎりをいっぱいおさました。わたしは、おいしいそうにできたなあと思いました。夕ごはんはみんなといっしょにコロッケを食べました。とてもおいしかったです。店で売っているコロッケとくらべると形がわるいものもありました。でも、みんなは、「おいしい、おいしい」といいながら食べてくれました。作ったコロッケは、みんな食べてくれました。作つてよかったです。わたしは、また、三人でコロッケを作りたいです。そして、今度は、いろいろな形のコロッケを作ろうと思ひます。

楽しいコロッケ作り



島田小三年 松 永梨沙

わたしと、お母さんと、おねえちゃんてコロッケ作りをしました。さいしよ、パン粉と小麦粉といろんな物を用意しました。じゃがいもは、むしきの中に入れてむしました。ひき肉は、フライパンでいためました。そのひき肉とじゃがいもを大きいボールの中で手をつかってよくまぜました。

次に、それをわたしと、おねえちゃんとお母さんと、まるく、ひらべつたい形にしました。まるくするところがむずかしかったです。わたしが、「おいしくできたらいいね。」と言うと、おねえちゃんは、「うん。」と、答えました。作っているとき

いもが手にくっついてべたべたしました。今度は、たまごと小麦粉とパン粉をつける番です。お母さんは、小麦粉をつけて、わたしは、たまごをつけて、おねえちゃんがパン粉をつけました。わたしは、手がぬるぬるしてきもちわるかったです。でも、おいしいコロッケを作

るためにがんばりました。つけるじゆん番は、はじめに、じゃがいもとひき肉をまぜて作つたものに小麦粉をつけました。次に、たまご、パン粉のじゆんにつけてできました。わたしは、たまごをつけるとき、ちゃんと形をなおしながらつけていきました。全部、粉をつけおわるとあぶらであげる番です。わたしもやろうとしたら、お母さんが、「あぶないからやめなさい。」といいました。それで、わたしとおねえちゃんは、そばで見ている



おしゃか様の弟子になった日



桐島小四年 清野 繁大

12月2日、ぼくの得度式がありました。得度式というのは、おぼうさんになるための、最初の式です。頭をまるめて出家する日のことです。今はだいたい後をつぐので、

言葉などを細かく教えてくれました。その他に、親せきの人やだんなの人たちからお祝いをいただいたり、手伝いをしてもらったりしました。いよいよ本番。その日の朝、おフロに入ってから白い着物を着て、

いよいよ式が始まり、おしゃか様の弟子になったと言え、今はまだその気になれません。これから、たくさん修業をつんだり、いっしょうけんめい勉強したりしなければなりません。だんなの人や親せきの人たちに、りっぱな後とりになって下さいと言われました。多分、ぼくの家族もそう思っていると思います。もしたら、少しだけやる気が出て来たような気がしました。

「心の出家をする日です。」と、弥彦のお寺のほうじょう様が言ってくれました。その日は、弥彦のほうじょう様のほかに、だんなの人や、親せきの方が祝ってくれました。その日までに、ぼくの家族みんなが、一生けん命準備をしたり、はげましたりしてくれました。まず祖父は、ぼくのししよ(先生)でもあるわけで、安名といって、おぼうさんにつける名前を考えたり、お客様に招待状を出したりしてくれました。祖母と母は、白衣やころもの長さを直してくれたりその日に使う道具をそろえたりしてくれました。

いよいよ本番。その日の朝、おフロに入ってから白い着物を着て、出番を待ちました。朝ごはんもものに通らないほどきんちようしていましたが、父の一言できんちようがほぐれました。その一言とは、「だじしようぶだから、心配するな。」

「頭をそつていいですか。ゆるすないなやー。」と、言われました。その後ぼくと、「ゆるす。」と、本堂のすみずみにまで聞こえるような大きな声で言いました。でも本当はゆるせませんでした。しかし、かみそりをあてるだけで

おばあちゃんは時々わたしにむかしの話をしてくれます。その話を聞いたときに、むかしの人は大変だったんだなあと思います。おばあちゃんが小学校に通っていたころしていた仕事は、こもりや酒のあとおしです。酒のあとおしというのは酒屋から、えきまで酒をリヤカーで運ぶことです。そのころは車がなかったので、手でひっぱっていったそ



おばあちゃんありがとう

島田小四年 久住 友希

うです。学校に行く前にひっぱたきです。今のわたしだったら、そんなこと考えられせん。きつと手にまめがでたりしてとてもいたい思いをしながらやっていたんだらうなあ。長いきよりなのでとてもつかれたんだらうなあ。そう思うと、おばあちゃんはとてもえらいなあと思います。ちよつとわたしにはまねできそうもありません。

そのほかに、おつかいやふろたきいねかりなどもしたそうです。仕事がいそがしくて宿題は夜おそくにやつたそうです。おそくまで起きていて早く起きなければいけないおばあちゃんは、ね不足だったと思います。おばあちゃんは子どもだったけど、おばあちゃんに倍働いたと思います。わたしは、それであんなに足が酸かぎれになったりするんだなあ。おば

あちゃんきつと母さんの言うことをきくいい子だったらうなと思います。おばあちゃん学校をそつぎょうした後、中学にいかず、働いたそうです。主に田んぼ仕事です。そして十七さいの時、大阪に働きに行つたそうです。おばあちゃんは今でも働きます。わたしたちが食べる野菜を育ててくれたり、月曜日から金曜日までは、おばあちゃんが夕飯のしたくをしてくれたりします。たまにもあるけれど、決められた時間に帰つてきて畑へでかけたり、夕飯のしたくをしたりするのです。おばあちゃんはとてもこわいです。きつとおばあちゃんは、おばあちゃんのお母さんにこわきびしく育ててもらつてよかったなあと思つているからわたしたちにもきびしくするんだらうと思ひます。

今、わたしは四年生。おばあちゃんの子どものころをみならつておてつだいをたくさんしようと思ひます。わたしは大きくなつたらどんな仕事するか。楽しみです。そして、おばあちゃんのように一生けんめい働きたいなと思ひます。おばあちゃん働いてくれてありがとう。本当にいつもごくろうさま。

家族そろってする農家の仕事



桐島小五年 佐越 恭子

私の家は農家です。だから日曜日は休みなしで働いています。私の家には一年中様々な仕事があります。今の時期は、「なめこ」や「しめじ」の収穫や、来年のなめこやしめじの種まきをしています。

きのうも、父や母は夜六時ころまで働いて、夕飯をさつと食べた後、すぐに小屋へ行ってなめこを洗っていました。

「お父さん達、大じょうぶかなあ。」父は夕方になると与板の店に「なめこ」などの出荷に行きます。いつもそうです。

私も行ける時はいっしょに車にのって手伝います。父や母が大変そうに働いているのに、自分がのん気にテレビを見ているのは申しわけない気がするからです。

私が行くと父は、「少しは仕事が無くなるなあ」と言ってくれます。私は少しは役に立ててうれいいます。

ご飯を食べ終わると、父はぐつたりとしてねこがります。それに父母は私達より早くねる時があります。そんな時は、「よっぽどつかれているんだなあ、いつもあんなんじゃ農家はいそがしすぎて大変だ、体をこわさなければい

いが。」と、思います。大変なのは父や母だけではありません。祖父もよく働きます。きゅうりをはこの中につめたり、そのはこを作ったりするのは、祖母だけの仕事です。

「なめこ」は家族そろって働くことがあります。父が「なめこ」を洗って、母が重さを計って、祖父がふくろにつめて、祖母がゴムでとめます。私と弟の一行はふくろづめを主に手伝ってあげます。

私は親に言われてするんじゃないやなくて自分から進んで働きます。それは父母が大変そうだからだけではありません。やるのがとてもおもしろいからです。小さいころから見えてきた仕事を家族そろってできる事がうれしいのです。

この長い冬が終わると、私の家が一番いそがしくなる春がやってきました。春はいねや野菜の種まきで大変なので私が手伝うくらいでは間に合いません。だから根小屋の父の友達のおじさんに来てもらって手伝ってもらいます。

それに仕事はビニールハウスの中でやるのでとても暑いです。ハウスの中にはり金がついているので、よく服やジャンパーなどがぶ



山田小五年 久須美 朗

あたたかい家庭

たって毎日やらなければなりません。つらくてもがんばって仕事をしたいと思っていますが、農家の仕事も大好きなので、兼業農家でもいいから、家族そろって農業を続けていきたいと思っています。

ぼくの家族は五人です。祖母、父、母、姉、ぼくです。それに大切にしているペット（ねこ）です。名前はポコといいます。家族でこのねこをだいに育てています。この前家族で話し合ったことがあります。それは、動物のことです。二学期になってからのできごとですが、道のわきにねこがすててあって、姉がそのねこを家にもつてきました。家族で話し合った結果かうことができませんでした。それで姉とおばあちゃん、だれにかかってもらえなことをいのもとの場所にもどしてきました。ぜったいねこをすてた人が悪いと思います。責任をもって育てるべきだと思います。

ぼくの家でこのねこをかってや

たいてい思っても、ぼくの家には、もう前からかかっているねこがいるのです。家でねこを二ひきかうと大変だし、けんかをしたり、今までいたねこがどこかへいってしまいかもありません。それでかうことができませんでした。ペットも、生き物です。人間の育てる、年よりになったからといって、いやになったからといって、育てるようなことをしてはいけません。ぼくは、そんなことはぜったいしたくないです。人間は話すことができるし、いろんなことができる。でも動物は話せないけど人間の気持ちは、よ



大事な父



桐島小六年 五十嵐 香織

父は帰りがおそい。とてもおそい時には十二時過ぎになる。平均で十時過ぎだ。だから、家族は待ち疲れて寝てしまうことが多い。六年生のわたしでさえ、「おかえりなさい。」が言える日はめつたにない。まして、妹や弟は、夜の父の記憶はあまりない。

父は、朝は朝で早い。七時前に起きて七時十五分には出かけていってしまふ。子供たちと交わす言葉は「おはよう」「いってらっしゃい」くらいです。こんなですから、家族の団らんには父がいることはめつたにない。わたしは、それが当たり前のように思って暮らしてきて、何の不思議もなかった。

とところがある日、父が言った。「寝る前に、わが子の顔を見ると今日一日の仕事が終わったというほつとした気持ちになるんだよ。明日もがんばるぞつて気持ちになるんだなあ。」

わたしは、父がそんな思いでわたしたちの寝顔を見ていたことを、初めて知った。私は、とても、うれしかった。「お父さん、なぜそんなにまでして長い時間働くの。過労死してしまうよ。」



山田小六年 和田 浩之

父、母、兄、ぼく、そして家族

最近、国語の意見文の学習で過労死について調べたわたしは、急に父が心配になって聞いてみた。「それは、家庭のためだよ。みんなが幸せに暮らしていくためだよ。でも、それだけじゃない。自分のためでもあるんだよ。それは、自分の幸せのため、一人の人間として社会のために役立てるためだよ。」

父はそう言うのである。父が大きなものに感じられてうれしかった。これからは、父と話す機会を多くして、いろいろなことや考えを聞きたいと思った。

「父」ぼくの父は、がん固な人です。力は強い、身長は高い、運動はできるの三拍子そろつた父です。その反面、英語は苦手、短気、あまり話し方がうまくないの三拍子そろつた父でもあります。でも、英語は、今、いっしょうけんめいに、勉強しています。仕事では、先日、父が十五年間

今、わたしたちは、新しい家を建てている。わたしたちはみんな強い関心をもって楽しみにしている。祖父は、毎日のように見に行き、報告をしてくれて会話が始まる。家を建てる決断をしたのも父だ。

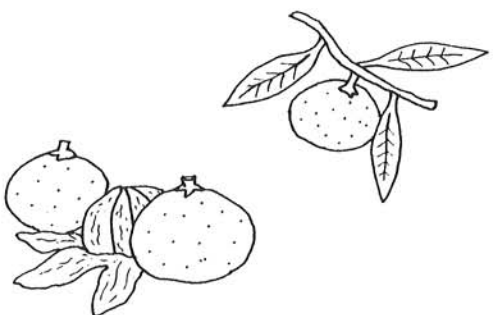
「お前たちや家族全員みんながんばっている。これからも元気で仲良く暮らしていくために、今だから家を建てるんだよ。」もうすぐ家が完成だ。新しい家での正月が、今から待ち遠しい。わたしの家族はうまくやっているとと思う。でも、もっとよくなる

働いた感謝状をもらいました。その時もらつた、紅白まんじゅうは、格別においしかったです。剣道ではこわい先生です。「母」ぼくの母は、陽気です。しかし、おこるとこわいです。母の仕事は、家事です。けれども、病気になるやすいので、体を休めるために昼寝をします。ぼくが帰

ためにできることはある。団らんの回数を増やしたい。家族旅行やキャンプなどの家族行事で家族のきずなを深めたい。「仕事をする時は、遊ぶときはしっかりと遊ぶ。それが幸せな家族だな」と父は言う。わたしもそうだなと思う。それにつけても、家族の柱はやっぱり父だ。父がたおれたら大変だ。そんな大事な父にゆとりをもってもらうために、わたしがやることはやり、父には家でゆっくり休んでもらえるようにしたい。休みの日には、ゆっくり寝かせておいてあげよう。「おとうさん、たばこはほどほどにして、体を大事にしてください。いつまでも元気な父でいてください。」

母は、休みの日がありません。毎日、毎日、家で、働いています。おこるとこわい母です。「兄」ぼくの兄は、運動することが苦手です。だから、家でいつも、ゴロゴロとしています。けれども部活は、剣道をしています。

父は、すぐに、なにかがあると「つかれた。」と、言います。でも、いつも、元気がです。兄は、一回見たビデオを、何回も見ます。だから、父によく注意されます。



身長が高い兄です。

『ぼく』、ぼくは、一番いばれ
ません。一番チビです。だから、
兄とけんかをする、負けます。
だから、なにかも兄優先なので
す。

そのほかは、自分がどう見られ
ているか知らないで、書きませ
ん。
一番、存在感が、低い、ぼくで
す。

一種の、家庭社会だと思いま
す。
家庭では、夫婦げんか、親子げ
んか、兄弟げんかと、色々なけん
かがあります。しかし、夫がいな
い人、子がいな人、兄弟がいな
い人は、こういったけんかができ
ないのではありませんか。こうい
うふうなけんかをおしながら、
家族の心のつながりができるの
だと思います。だから、ぼくは、た
がいに信頼し合える家族のいるこ
とを、幸せに感じます。そして、
大切にしていきたいと思えます。

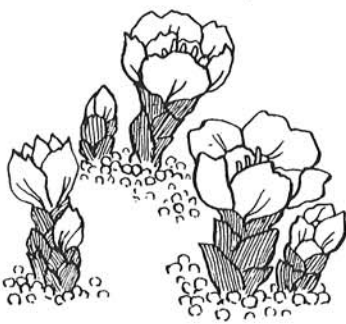


家族に関心をよせてみて

北辰中一年 佐藤 亜紀

道德の時間に家族について考え
ました。「自分は、家の中でどれ
だけの役割を果しているか？」と
いう質問で、私は二パーセントく
らいかなと思えました。次に、「家
族をつないでいるものは何か？」
という質問がありました。考えて
も、考えても答えがうかばず、チ
ヤムが鳴ったので、適当に「相
手を思いやる気持ち」と書いて出
しました。

出し終ってから、改めて考えて
みると、たとえば、食べ物を買う
時、妹の分も買っていいよ。」今
晩これをみんなで食べよう。」な
どという気持ちは一人暮らしには必要
のないことです。家族の一員であ
ることで、こういう気持ちが知ら
ないうちに、育っているような気
がします。



だから、さっきの答えはあれで
良かったのだと、自分で納得し
ました。
その日の夕食の時に、道德の時
間のことを思い出し、母に聞いて
みました。
「ねえ、お母さん。私、二パーセ
ントくらい家の中で役割を果して
いると思うけど、どう思う？」
すると母は

「二パーセントもある？〇パーセ
ントじゃない？」
と答えました。
なぜ、二パーセントにしたかは
次のことがあげられます。まず、
部屋の掃除をすること。それに、
妹たちの面倒をみることです。そ
れを話すと、「ふうん。」と終っ
てしまいました。
そういえば、部屋の掃除と言っ
ても、自分の部屋や洋間くらいし
かしていません。それに、毎日は
無理としても、日曜日くらいはと
思います。それも、気が向かな
ければしません。たまに、夕食の
後片づけを手伝ってくれと頼ま
れることがあります。宿題しな
いと……。」など、理由をつけて逃
げてしまいます。それに、日曜日
は十時頃しか起きないので、いつ
までたっても片づけられないなど
と、迷惑をかけたばなしです。こ
れでは、〇パーセントだと言われ
ても仕方ありません。
質問をかえて、今度は、
「家族をつないでいるものって何
んだと思う？」
と聞くと、
「家族をつないでいるものねえ……
。相手を思いやる気持ちじゃな
い？」
と答えました。

私の祖父と家族



北辰中二年 久住 実奈子

て良かったあと思っています。
うちは、七人家族です。たまに、
父が仕事のため、燕にある実家に
泊まります。そんな時、なんと
く暗い感じがします。たった一人
欠けただけでも、この調子です
から、家族一人一人の力とはすこ
いものなんだなあと思っています。家族
は、全員そろって家族といえるの
かも知れません。

もしも、家族がいなかったら、
ほしい物も買ってもらえないし、
旅行にも行けないからいやです。
それに、何をするにも一人で寂し
いと思います。

うちは、毎年お正月が近くな
ると大掃除をします。この時は、家
族みんなでやります。家族みんな
でやることといえば、こんなこと
くらいしかありません。仕事は、
大勢でやるからかどるし、疲れ
るけれど終わった後は、気持ちがい
いものです。

こんなことを、年に何回かやる
と、もつともっと家族に対する関
心が高まるかもしれません。
これから、〇パーセントといわ
れないように役割を果して、家族
と協力していきたいと思えます。

私の祖父は、今から六年ほど前
に、蜘蛛膜下出血という頭の病
気をした。その病気は、本当に死
か生きるかの大きな闘いだっ
た。祖父もよくがんばったが、ま
わり
の家族や親戚の人たちのおかげ
で、祖父は奇跡的に助かったの
である。

ある日、私は父と母と一緒に、
病院へお見舞に行った。手術の
日から、もう何日もたっていた
ので、私はあまり心配はしてい
なかった。祖父は頭に白い帽
子をかぶっていた。私は、祖父
の近くに行くと、
「おじいちゃん、頭、大丈夫？」
と声をかけてみた。返ってきた
答えは、
「おうお、大丈夫らしいや。」
あとから、毎日世話をしている
祖母が、祖父に、
「この子、だれだかわかるかね？」
と聞いた。残念ながら祖父は、
私
が孫の実奈子だということを知
っていなかったようだった。
「はて、だれだったろうなあ。城
之丘の人らかね。」

なんて、私に聞いてきた。私は
ごく悲しく、みじめに思った。あ
の働き者で、やさしくて、なん
でも私に教えてくれたあの祖父が、

こんな姿になってしまっ
て、とて
もかわいそうでならなかった。そ
して、私は、祖父の病気を心か
ら
憎んだ。

私の大好きなおじいちゃんに、
なぜ、こんなひどい病気がとり
つ
いたの……
とは言っても、どうにもならな
い
ことは十分わかっていた。
祖父の世話をしていた人たちは、
あ
の薄暗く、空気の悪い病室で、
約
八十日間過ごしたのである。ず
つと
付き添っていた祖母はその頃、
右
手を骨折していたので、すこ
く
大変だったと思う。きき腕が使
え
ないなんて……。でも、祖母もよ
く
がんばったなあと思う。腕の痛
み
は激しく、こらえていた時もある
た
だろう。しかし祖母は祖父の
看
病に全力を尽くした。父や、父
の
兄弟も埼玉や神奈川から来て、
一
緒に看病した。私は、この祖父
が、
みんなに尊敬され、みんなに愛
さ
れていたことを、しみじみと感じ
た。

一方、私の家では、二人欠けた
四人で生活していた。母は毎日
早
く起きて、掃除、洗濯、朝食作
り
をしていた。そして、農協で働
き、
夕方、疲れた表情で帰ってきて、

また、夕飯の支度をした。私は
と
ても母が辛そうに見えた。少し
で
も役に立とうと思え、できるか
ぎ
り手伝いをした。そして祖母
た
ちの掃りを待っていたのだ。今思
え
ばあの八十日間、すごく大変だ
っ
た。本当に家族が欠けるとい
う
のは、とても寂しい。
祖父が退院し、帰ってきた日
を
私は今でも覚えている。走って
出
迎えに行った。
「おかえりなさい。」
その時の祖父の顔は、ほつと
し
たように、にっこりしていた。私
も
ほつとし、うれしかった。もう
四
人じゃなく、また六人の家族に
な
れるのだ。

あれから六年ほど過ぎた。今の
祖父は、手足も利くし、口が利
け
るし、ほとんど普通の人のよう
に
戻っている。しかし、口が利き
ず
くて、いらぬことまでしつこく聞
い
てくるのだ。それを私や弟は、う
る
さく感じてしまっ、ついおこ
っ
てしまう。
「うるさいよお！もう……。」
それからケンカが始まる。これ
は、
ほとんど毎日のことだ。何度も
同
じことをくり返して聞くので、
こ
っちも頭にくる。母も、疲れて帰

ってくるのに、何度も同じこと
を
言われるといらいらして、いら
な
い神経を使わなくてはならない。
「おじいちゃんのバカ!!」
大きな声でそう叫んだことが今
ま
でも、言ったあとから、よく自
分
で考えてみると、好きで病気に
な
ったんじゃないんだ。おじい
ち
やんにこんなこと言ったらばち
が
あたるなあ、と反省する。昔、
一
生懸命私たちのために働いて、
頑
張ってくれた祖父をもっと大切
に
しなければならぬのだ。そして、
今
までの恩返しをしなければい
け
ないのだ。これからは、祖父を
大
切にし、面倒を見てあげようと思
う。
そして、祖父もきっと長生
き
できる。

家族は、助け合って生きてい
く
ものだ。一人だけなんて、家族
と
はいえない。家族も一つの団体
な
のだ。チームワークが必要な
の
だ。これから先、もつともつと
チ
ームワークを固めていき、世界
一
の家族になるように努めようと思
う。





わが家の主

北辰中三年 山田道紀

僕の父は、歯医者をやっています。これは祖父の代からでこれ二代目というわけです。父はこの職業につくと祖父に言ったら、ならないほうがいいと言われたらしい。結局この職業を選んだ父は少なくとも二十四年間ぐらいいはやってきたようです。一日中立ちっぱなしで細かい仕事だけに、相当に疲れているはず。午前九時ごろから一時ごろまで、午後は二時半ごろから遅い時は八時頃までやっています。夜は夜で十時半頃まで、やり残したことや入れ歯の型を作ったりして、時には僕の歯も見てくれます。

二十年もこの仕事を続けた父ですが、やっぱり人の体を見て治療するわけですから、相当の神経を使うようです。当然苦勞も出てくるはず。それは夕食の時などの話に出てきます。一番の苦勞は年輩の人に多いのですが、血栓を防ぐために血がたまらないようにしておく薬を使っている人がいるということ。そのことを知らないで歯を抜いてしまうとどうなってしまうでしょうか。それは血が止まらなくなって大変なことになってしまうようなのです。

だからそういう薬を使っているのなら、そう言ってもらわないと困るということでした。

他にも沢山の困難と苦勞があったと思いますが、最近僕から見えてきたことがあります。それは仕事をしている時間が前より長くなったように思うのです。時には早く終わる日もありましたが、七時半頃がほとんどでした。僕の勝手な解釈でしかないのですが、その理由は年をとってきて仕事のスピードが遅くなったからだと思うのです。前にも書いた通りこの仕事は人命にもかかり、そして細かい仕事なのでそれだけでも大変なことなのに、それに付け加え年をとってしまつたので、なおさらのことスタミナもなくなつてしまつたのではないかと思うのです。

おまけに患者さん達は休みでもないかぎり毎日いるのでちよつとのことでは仕事を休む訳にもいきません。以前僕が帰つてくるとコタツに入った父がいました。訳を聞いたら気分が悪くなつたと言つて苦しそうに顔をしかめたことがありました。苦しそうなのは誰が見たつて一目瞭然です。結局四十分位たつてから仕事を再開しに行き

ました。こんな時は、患者さんも少しは考えてくれても...とも思うのですがやはりこの仕事を選んだのは父自身のなだし、しようがないかとも思うわけです。祖父もこの仕事についていろいろを反対したのかもしれない。とにかくこの仕事を選んでしまった以上逃げるわけにもいきませんし、当然父もこの仕事から逃げようと思いません。

平日これくらい大変なことをたぐさんしているのだから休日ぐらいいつくり休めばと思うのですが、休日になればなつたで平日と違つた意味で働かざるを得ません。庭の手入れや家の掃除までやってくれます。庭の手入れの方は、父自身の趣味でもあるので、休みの日に趣味にひたるのはいいことだとは思いますが、一日じゅうのんびりしてほしいとも思うのですが、自分の好きなことをやっているほうがいいのかもしれない。昼頃になると決まって父と母と僕の三人で洋間で庭を見ながら父は感無量の表情で庭を見、眺めます。それはおそらく自分の手で作つてきた庭だからではないかと思えます。結局父の休みはそんなふうになつて

しまっています。そしてまたあの大変な仕事がつ月曜日になります。仕事が終わり帰って来て夕食になります。その時はニュースを見ながら、いろいろな話をします。自衛隊は憲法違反とか、今の政治家はとか、とにかくいろいろな社会情勢についての話です。父は戦争中も生きており、社会的知識の豊富な人です。だからそういう話をしていると、いろいろなことを知っているんだなと感心します。兄の話もときどき出ます。電話で話している時なんかは本当に嬉しそう。父も

もう五十歳を越えているのでこの仕事は本当に大変だとは思いますが、それでも一家のために苦勞を重ね働く父は、一家の大黒柱そのものです。今、兄も大学へ行き父と同じ道を歩もうとしています。なんと少しでも歯科医になつて少しでも父を助けてほしいと思っています。本当にいろいろな面で立派な父。そんな人が我が家の主であることを幸せに思います。これからは無理をしない程度にこの仕事を続け、死ぬまで歯科医としてやっています。ほしいと思います。



出土木簡について

木簡は11月14日(一号木簡)・11月20日(二号木簡)にそれぞれ発見されました。肉眼では判読できない文字がある為に、千葉県にある国立歴史民俗博物館において、同博物館の平川南教授と新潟大学の小林昌二教授から、赤外線カメラを使って判読していただきました。木簡はいずれもA地区の37号溝から出土しておりまして、狭い範囲から出土して、狭い範囲から人形・齋串と混在して発見されました。37号溝から出土した土器は細片が多く、時期を明示するような資料は出ておりません。しかし、奈良時代前半の遺物を含む層の下で確認されたことや、それ以前に遡る資料が本地区から全く出土していないことから、奈良時代前半の遺構と考えられます。

(一号木簡)

左右側縁に若干欠損箇所がありますが、ほぼ完形で、約58cm(一尺九寸)の長大な木簡です。新潟大学の小林教授による読み方を紹介します。(表)グンジ フスル オオミゴウノコト ショウウテイ コシノキミオオムシ ミギノヒト ソノショウシンヒキイテ(裏)ムシオオ グンヨリムキマイル サクコウニツカサヒキイテモウシタモウ フィタリナバ ブギョウセヨ カキウノウツカイ コシノキミイオシマ 九月二十八日 ハ

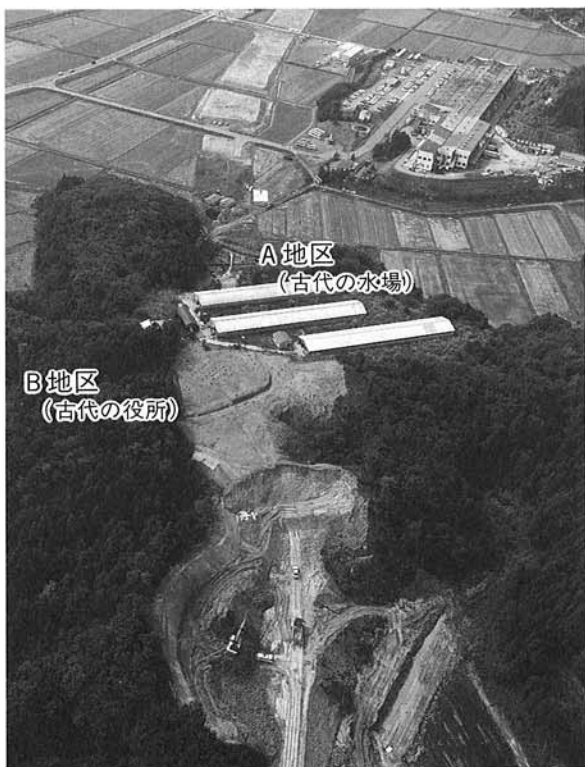
セツカベ 内容としては、郡司(郡の長官)から青海郷(現在の加茂市)に出された命令書と考えられ、高志君大虫(年令17・20才 豪族の子弟?)に、国府(上越周辺)に自ら出頭し、十月一日に行われる行政報告の儀式に参加せよとの内容である。またこの符を大虫に急ぎ届けたいのは高志君五百嶋で、文書の作製は郡の四等書記官である丈部がおこなつた事が記述されています。このような完形の郡符は全国で初めての発見です。長大な形状をとるのは、単なる命令書ではなく身分証明書として携帯されたものと考えられます。

(二号木簡)

本木簡は上下を欠損しているが、一号と同じく行政文書と考えられます。内容は、(表)28日の解(ひ)によって請求のあった養老○年料を示すものと考えられ、(裏)は人名が連記されていると考えられ、○○祝(神儀官?)沼垂城司の○○を表わすものと思われ。わずかに九cmほどの木簡の断片でしたが、その表裏の内容は古代史を塗り変える意味を持っています。その意義としては、①大化3年(六四七年)に造られた淳足柵が、奈良時代前期まで沼垂城と改称され、北方支配の城柵としてその機能を持続された。②淳足柵(沼垂

古代のロマンを求めて

～発掘調査特集



▲八幡林遺跡空中写真

「八幡林遺跡から木簡が発見」テレビや新聞で何度となく報道されました。今月号では、その八幡林遺跡について詳しくお伝えします。わずかに三ページの中で、古代のロマンを一緒に求めてみませんか?

八幡林遺跡調査の概要

八幡林遺跡は丘陵頂部にあるB地区と丘陵南斜面丘陵裾の谷地にあるA地区に大きく分けられます。B地区は9月10日～10月12日にかけて調査が行なわれたもので、奈良時代の遺構としましては、掘立柱の建物跡が5棟・堅穴柱居が2軒・堀・土塁などがあります。遺物はコンテナで一箱分出土しておりまして、「足鳴」という人名が

墨書された須恵器の杯蓋などが見られます。

A地区は、10月15日から調査が行われておりまして、現在も継続中です。奈良時代の遺構としましては、自然の湧水点が一ヶ所と、溝が一条検出されているのみです。この溝中から木簡が出土しました。遺物は多量に出土しており、コンテナで約30箱にも達しております。注目される遺物としては、当時の行政文書と考えられる木製の人形・齋串がそれぞれ1点・奈良平城京(当時の都)の官営工房で焼かれた緑釉陶器が1点・瓦が5点出土しております。特に奈良時代前半の緑釉陶器の出土は県内では初例です。

城)の所在地が沼垂地方(新潟市)にあった事が明確になった。の2点があげられます。

遺跡の性格

今回の調査は、遺跡の一部を調査しただけでしたが、検出された遺構・遺物の内容から、次のような性格付が可能と思われます。

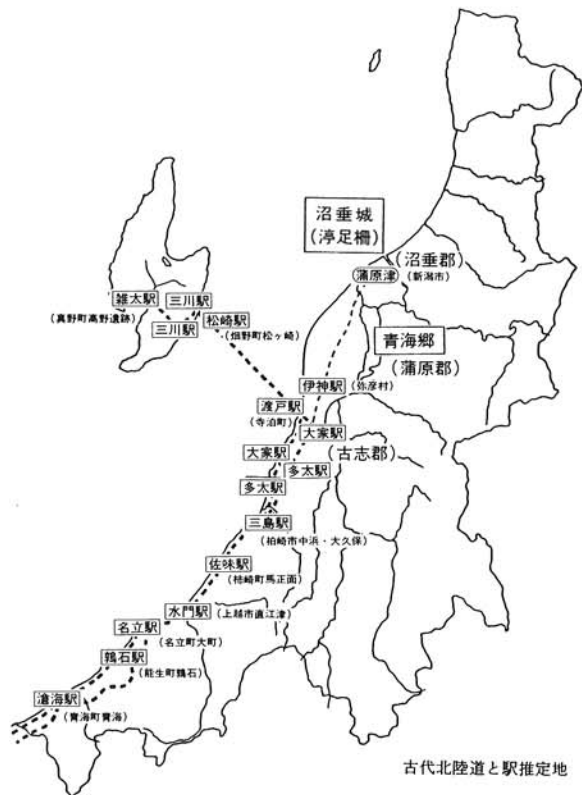
① B地区に掘立柱建物を主体とする地方官衙(役所)が存在し、A地区はそれに関連する

水場・廃棄場として利用されていた。

② B地区の官衙は、土塁や堀を持つ特異な構造である。

③ 今回調査した官衙は、奈良時代前期(約千二百五十年前)のものである。

④ 具体的な性格としては、官道である北陸道の関所や駅家あるいは古志郡の郡衙などが考えられます。



▲12月14日和島村初の記者会見
こんなに沢山の報道陣が集まりました。

現地説明会

十二月十六日、北辰中学校体育館で「八幡林遺跡現地説明会」が行われました。五百五十人ほどの人が集まりましたが、これは県内では、最高人数だそうです。村内はもちろん新潟市などからも来られました。「和島村が世に出た」という感じですが、などと感想を語って下さいました。



現地調査を担当した田中靖さんにインタビュー

木簡発見の第一声は「ひえ〜」
—はじめて木簡を発見したときの感想は？

みつけたのは、みんな作業員の方ですが、一号木簡の断片が最初に出た時は、「あゝ木簡だな〜」くらいにしか思いませんでした。それほど感動はなかったです。眠れないくらいに感動したと思



ったんですが…
それからもう一枚「沼垂城」がでたときは、すごかったです。字が書いてあると思っただけで洗って見たら最初「城」という字がみえたんです。「城？すげーのがでたな〜」と思っただけでよく見ると「沼垂」と書いてあるんです。「ひえ〜」と思っ

—その日は眠れませんでした？

はい。手がふるえて、涙がポロポロでてきて…それから「これは新潟へ持っていかなくては！」と思っただけなんです。大丈夫ですか？

—和島村では、こういうのはもちろんはじめてですよ？記者会見だけでもすごいと思えますが、仕事をしていたらどういった現地説明会は、今までにありましたか？

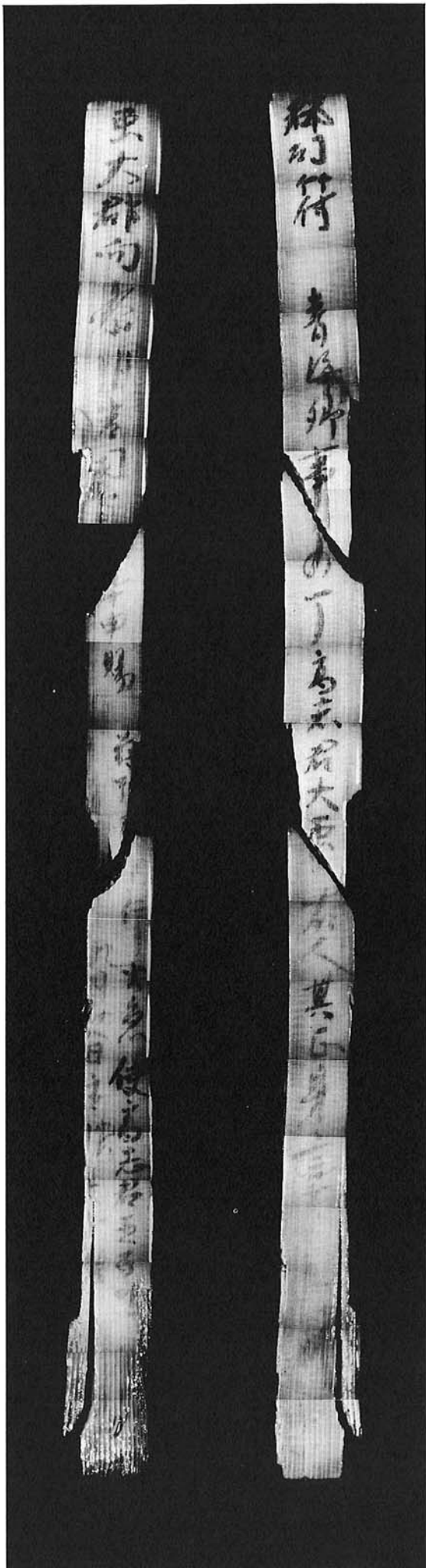
はい。宝クジにあたったようなものです。これからは発掘調査は続きますね。このような貴重なものはできると思いませんか？

よくありました。でも県内では三百人が最高でした。今日は五百人でしょ？私が経験したのでは、百五十人が最高ですからすごいですね。全国でこういう仕事をしている人は、一万五千人います。そのうちこういう経験ができる人は、何%かです。一生やってもできない人もいます。それなのに私は若くして(?)こんな一大発見ができてうれしかったです。

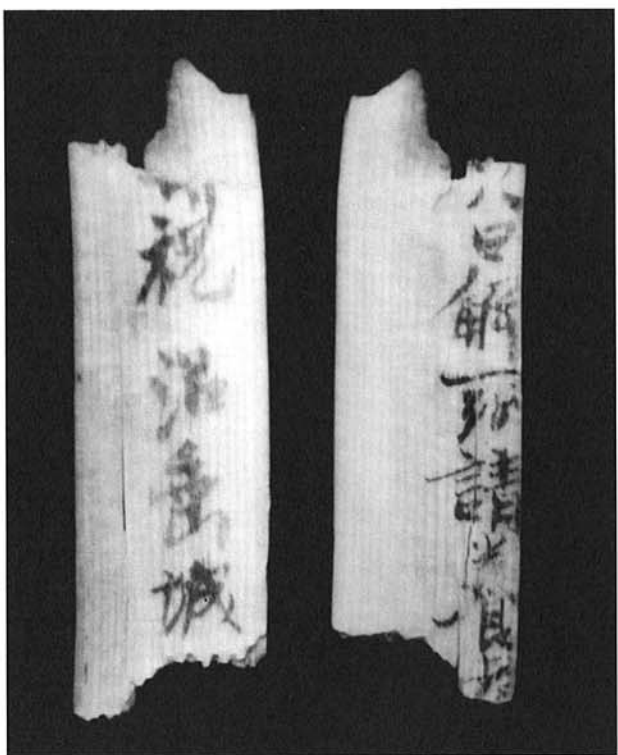
—いろいろな偶然が重なって田中さんがみつけることができたんですね？

はい。宝クジにあたったようなものです。これからは発掘調査は続きますね。このような貴重なものはできると思いませんか？

第一号木簡



第二号木簡



釈文

第一号木簡 五八五×三四×五 ○一一形式

(表) 郡司符 青海郷事少丁高志君大虫

右人其正身率

(裏) 虫大郡向參朔告司□率中賜

符到奉行 火急使高志君五百嶋

九月廿八日主帳丈部 □

第二号木簡 (九〇)×(二二六)×二一

×廿八日解所請養老×

×□祝 沼垂城×

在宅老人介護者のリフレッシュ

在宅寝たきり老人を介護している「在宅老人介護者の集い」が先日総合福祉センターで開催されました。

これは日頃在宅で寝たきり老人や痴呆性老人を介護している介護者の心身のリフレッシュを図るとともに福祉サービスの社会資源の活用、特別障害者手当、所得税における控除対象となるおむつ代、在宅介護費用申請の説明と介護技術の習得を目的としたものです。

介護者が日頃の悩みや体験で交流を図りながら、介護の実習では如何にしたら効率のよい介護ができるか。如何にしたら心地よい介護が受けられるか。

介護する人、される身になって活発な意見交換がなされていた。

また、中食を混えながら行なわれたゲームでは汗を流して笑いころげ、また明日へのエネルギーを燃して次回の交流を約束して閉会した。



第10回首都圏ふるさとわしま会総会

11月25日、東京目黒区の雅叙園観光ホテルで「首都圏ふるさとわしま会」の総会が開催されました。この会も今年は、創立10周年を迎えました。

当日は、120名を越す会員が出席され、村からは村長、議長をはじめ島田、桐島地区農協、良寛物産、良寛審議会の代表など30人程が出席しました。

総会は、午後12時30分から始められ、宮田会長のあいさつや会務報告が行われたあと、懇親会に移りました。

懇親会は、どのテーブルもなつかさでいっぱいになり、「三二同総会」があちこちで開かれているようでした。



Merry X'mas

青年夢来のクリスマスパーティー

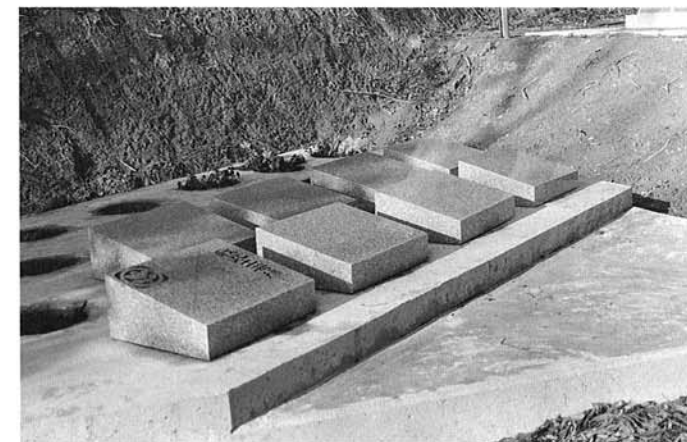
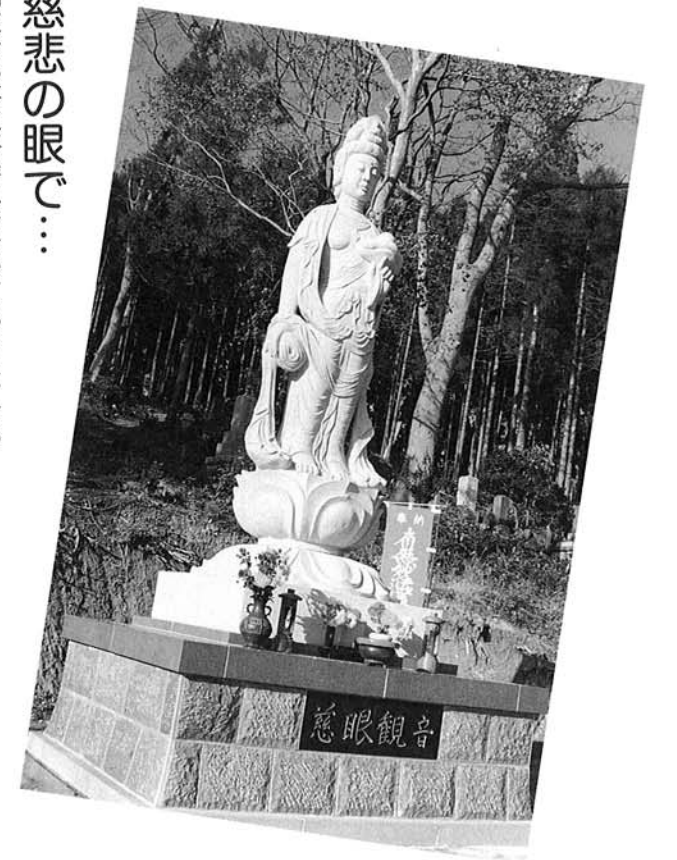
12月11日、小島谷の鹿鳴館でクリスマスパーティーが行われました。これは「青年夢来」の企画、主催で約70人が参加しました。

「dress up」というのがこのパーティーの条件。男性はネクタイ、女性はスーツやワンピースで皆さん着飾っての登場でした。パーティーの途中では、ティスコタイムや一足はやいサンタクロスからのプレゼントもあり、とても楽しく最高でした。

なお「青年夢来」については、おって詳しく説明する予定です。



慈悲の眼で…
国道から落水海岸へおかつていくと、右の方に観音様がみえてきます。晴れた日は、青い空と白い観音様の対比がとてもきれいです。この観音様は「慈眼観音像」といい、重さは七トンほどです。九月二十四日に入魅式が行われました。これは本行寺(小田泰博住職)の檀家の四人の方が寄付されたもので本行寺地内にあります。
「慈眼観音」という名前は、日本ではおそらく一つしかないそうです。観音様には、宗派は特にありません。慈悲の眼でいつまでもみなさんの平和を願っています。
また観音様の隣には、永代供養をする共同の墓があります。これは、一人暮らしでお墓がない方、死後誰にもお参りしてもらえない方などのために本行寺が宗派を問わず、納骨し管理するものです。今日の時世をよく表したお墓ですね。



もちつき大会

十一月七日、保育所でもちつき大会が行われました。これは今年からはじめられた「ふれあい教室」の一つで、二十人ほどの老人の方が参加され、行われました。
今はほとんどみられなくなった光景です。子供たちもはじめてのようで、「よいしょ」「よいしょ」とかけ声が飛び、興味深そうでした。
「一緒にやってみよう？」
「うん!僕、はやく食べたい!」
できあがったものは、きなこをつけて配られました。おいしかったかな。



良寛歌集 花シリーズ⑨

あしひきの 国上の山の

山畑に
蒔きし大根ぞ
あさず食せ君

大根は、アブラナ科の一二年生草木です。「すずしろ」ともい、春の七草の一つです。雪深い新潟県では、清物用としても冬季の貯蔵生野菜としても重要な地位を占めています。また冬といえばおでんにもかかせない材料ですね。良寛さまのこの歌もやがて来る厳しい季節を思わせるようではありません。



選挙結果

(和島村における候補者得票数)

参議院新潟県選出議員補欠選挙 (12月9日)

- ★むらた 一 男……………96,062票
- ★まじま 一 男……………1,431,937票
- ★さくらい 久雄……………1,065票

- 有権者数……………4,175人
- 投票者数……………2,631人
- 投票数……………63.02%

※発掘調査の3ページによる特集のため今月号の「発掘調査」は休ませていただきます。

村長室の黒板から

和島村長 山本 浩二

十一月十六日 農団代表と意見交換会
十七日 道路整備促進大会
二十日 予算検討会議
二十一日 本村と出雲崎町両議会の協議会の為出雲崎町へ
二十二日 金沢農政局へ陳情
二十四―二十五日 首都圏わしま会及び良寛の里PRの為上京
二十七日―二十九日 全国定住協役員会及び全国町村長大会で上京

十二月三日 農団と意見交換会
遺跡発掘関係者の研修会
四日 分水ロータスクラブ例会
で良寛の里を説明させて貰う
民生委員会 除雪検討会
五―六日 全国治水及び砂防大会で上京
七日 良寛物産と協議
十日 県農業所得協会会長会議
再圃場整備協議会
十一日 区長会

十二日 災害復旧全国大会
十三日 商工会との意見交換会
十四日 遺跡発掘共同記者会見
十五日 良寛の里審議会
十六日 良寛書籍大系出版記念会で新潟へ 剣道教室納会

年末に際して
十一月十二日天皇陛下の即位の礼が行われ、年号平成の通り平和な世界が招来することを期待いたします。

東欧諸国の政治改革が進み、東の湾岸緊迫情勢は余断を許しません。

せん。農産物輸出入に係るウルグアイランドはその決着が越年しそうであります。何としても米の問題は守らなければなりません。良寛の里、下水道事業が予定通り進捗し、里は来春のオープンに向けてピッチを上げています。師走に入つての八幡林遺跡発掘で、村が俄に全国的にライトアップを浴びることになりました。これを大切に慎重に対処してまいらなければなりません。

村内の安全と御多幸を祈念して筆を措きます。

平成3年4月6日・7日 村民事前公開
平成3年4月12日 竣工式



むら自慢

むら自慢の一つに弥彦山の姿がある。いずれの山も見る方向によって、眺める場所によってそれぞれ違うことは、誰も承知のことである。

幼少の時は、寺泊から弥彦山を見て育った私は、海から右へとみだらかに立ち上った形のよい弥彦山が好きであった。和島村の住民になつてからは、島崎から見る弥彦山の姿は又格別に思う。安定した落ちつきを見せ、その右に丸い國上山を従えるようにして威厳ある姿である。それが僅か離れた大川津橋から見ると弥彦山と國上山が位置は逆転してしまうのである。越後線の車窓では、姿の美しい弥彦山でなくなつて、見失いそうに通過するのである。何といつても島崎から國道一六号線に沿って桐島小学校へ向かう歩道を歩きながら左に見える弥彦山の姿こそゆつたりとして安定感があり、忘れることの出来ない風景と思う。春霞の弥彦山。田植えの終わった早苗の水田につく弥彦山。そして絨毯を敷きつめた青田を見おろして立つ弥彦山。緑り秋をよるこぶ。弥彦山。冬は雪の稜線で男性的美

弥彦山

高尾 育(北野)

しきになる弥彦山/四季それぞれに美しいのである。

その昔、小島谷村の豪農久須美秀三郎氏が庭園を築くに当たり、弥彦山を借景にして作られたという話は、き、伝えられていたが現在には住雲園として長岡市の所有で

あるが、前の持主であった池田直吉氏の住宅であった時、奥様の後輩として大勢で度々お邪魔してお庭に出て、弥彦山を望む風景を心ゆくまで味わ、せていただいた事を思い出し、四十年も昔のことを懐かしんで居る。

村史の窓(第二十三号)

和島村の碑文④

「風間信濃守」の碑

大字村田内治曆寺左手の、基地へ通ずる道を進み、左坂を登り、道なりに進み、更に三又路を左に下つた所に、竹林に囲まれた「風間信濃守」の石碑が建っています。碑文は

「妙賢院殿信昭日善大居士尊儀風間信濃守信昭公は建武中興の天業に与り、楠木新田両氏と併ひ称せらるへき古今の忠臣也、今茲六百年を紀念の際会し比古跡を繕し聊公乃忠烈偉勲に酬ひまつる者なり。」

裏面には
「明治三年四月三日命日忠昌院靈位風間辰之助乃甥池田祥泰建

維持昭和九年八月廿日」
この碑文から、明治三年に池田祥泰氏が風間信濃守の六百年を紀念して建てた碑であることがわかります。

この碑の脇に古く苔むした小さな五輪の墓石が三基並んでいます。(風間信濃守墓で村文化財)
さて風間信濃守は安塚町の直峰城を本拠とし、南北朝時代に活躍した武将と伝えられ、本山妙法寺の開基にも深くか、わつた人物といわれています。



新田氏等と共に南朝方に組し、北越地方の北朝方の軍勢と盛んに合戦をしています。
有名な島崎の合戦を記した「色部高長軍忠状案」にも島崎城に立籠っていた小木・風間・河内・池の一族を搦手より追落し、里見を生浦、飯野を討つた」と古文書に記録されています。古文書の日付が、建武三年二月七日ですから、南北朝時代に風間氏が活躍したことは明かといえます。この碑の隣に高き四十厘の低いものですが、中世初期の形式を残しており、妙法寺がかつて、今の治曆寺の辺に在つたと云われることから、本山開基に深くかかわつたことから、この地に葬られたとも考えられます。
この石碑を建てた池田氏の叔父は風間辰之助であり、風間信濃守の末裔という伝承もあり、古文書では本山妙法寺の檀頭を風間氏が務めていた記録もあります。
なお碑は建てられてから後、昭和九年八月廿日に補修維持されていることも記されています。
尚、風間信濃守の弟村岡三郎がこの地に在住し、村岡城に拠つたことは余りにも有名であります。

和島幼稚園 入園願のお知らせ

平成三年度の幼稚園の入園についてお知らせいたします。入園の申し込みは早目にお願いたします。

和島保育所

◆入所申請を受付いたします

- 1. 入所資格
和島村に住所を有し、なおかつ家庭において保育が困難な状態にある乳児(満1歳に満たない者)及び幼児(満1歳から5歳までの者)
2. 定員 120名
3. 申請受付
(1)日時 1月18日(金) 島田地区 } 午前9時~午後4時
1月19日(土) 桐島地区
(2)場所 保育所・事務室
4. 申請方法
役場住民課又は保育所に申請用紙が用意してありますので、必要事項を記入の上、当日ご持参下さい。
5. 保育料について
現時点では平成3年度の国の徴収基準が決定しておりますので、基準が決まり次第村の基準を作り、申請後それに基づき保育料を決定します。

年末年始の交通事故防止運動

- 1. 飲酒運転の追放
◎車を運転する来客には、絶対に酒類を出さない。
◎車を運転して外出する家族に、飲酒をしないよう「愛の一声」かける。
2. スリップ事故の防止
◎出勤等に当たっては、早めに準備し、ゆとりをもって送り出す。
◎子供が道路でスキーやソリで遊ばないように指導する。
3. 踏切事故の防止
(1)踏切内で車が動けなくなった時は、非常ボタンを押すか、発炎筒や青以外の物を振って、列車を止めて下さい。
(2)踏切内でしゃ断機に閉じ込められた時は、そのまま前にゆっくり進んで下さい。しゃ断棒は外側に押し開くことが出来ます。

安全を みんなでつなごう ゆく年くる年

今月の納税

- ※ 村民税.....第4期分
※ 国民健康保険料.....1月分
※ 国民年金保険料.....1月分
※ 幼稚園保育料.....1月分
※ 保育所保育料.....1月分
※ 水道使用料.....1月分

農業委員会委員選挙人名簿 登録申請書の提出

毎年、一月一日現在による農業委員会委員選挙人名簿登録申請書を農業委員会まで提出しなければなりません。次の事項に該当する方は、一月十日までに区長さんを通じて提出してください。

一月中の国民年金

◎60歳になる人
昭和六年一月二日から昭和六年二月一日生まれの人は、掛け金を掛け終りました。
◎65歳になる人
大正十五年一月二日から大正十五年二月一日生まれの人は、老齢(通算老齢)年金の請求をしよう。
◎現況届を出す人
今月生まれの受給者は、現況届のハガキが郵送されてきたら、忘れずに早めに証明を受け、切手をはって自分で出しましょう。

ひとり親家庭等医療費助成事業

この事業は、ひとり親家庭に対し医療費の一部を助成し、ひとり親家庭の保健の向上と福祉の増進を図ることを目的とする。
一 ひとり親家庭とは母又は父もしくは養育者で、十六歳未満の児童(障害児は二十歳未満)を扶養しているもの。
二 前号に扶養されている十歳未満の児童
三 父母のない十八歳未満の児童
児童
四 受給者は通院一か月、八〇〇円、入院一か月四〇〇円の自己負担となります。
五 実施は平成三年四月一日
六 所得制限などがありますので後日該当者に通知書を送付します。
※ 詳細については住民福祉係にお尋ね下さい。
☎七四一三二一一

歳末たすけあい募金

歳末たすけあい募金につきましては、区長をはじめ、婦人協議会、日赤奉仕団、村民の皆さんの協力により三六二、五六四円の実績をあげることができました。厚くお礼申し上げます。募金は、和島村在宅の方と福祉施設に入所されている人の歳末慰問に使用され喜ばれております。なお一部は、災害時の義援金として使用させていただきます。

1月の保健衛生行事

Table with 6 columns: 月, 日, 曜日, 内容, 対象, 時間, 場所. Rows include 1/21 (リハビリ), 1/25 (療育相談), 1/29 (スリム教室).

民生委員に相談を!!

◎私達は厚生大臣の委嘱を受けて、担当区域内に住む人達のさまざまな相談に応じるとともに、行政に援助し、地域住民の福祉増進と住みよい村づくりに努めることを任務としています。赤ちゃんからお年寄りまで生活相談についてお気軽に相談して下さい。

Table with 4 columns: 担当区域, 住所(集落), 氏名, 電話. Lists various neighborhoods and their respective staff members and phone numbers.

